

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 教育学部

事業担当者の職・氏名： 教授・内田秀昭

内線電話番号： 9263

電子メール： uchida@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

日本人学校インターンシップ（ジョホール、ホーチミン、高雄）

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

三重大学の学生（教育学部および教職大学院）が授業科目「海外実地研究 C」等のプログラムの一環として、ベトナムのホーチミン、マレーシアのジョホール、および台湾の高雄日本人学校にて実践的な学修活動を実施した。期間はホーチミンとジョホールが2週間、高雄は1週間であり、学生は各学級に配属され、学習指導補助、授業参観、一部授業の担当、児童生徒との交流などの幅広い活動を通して学校生活に関わった。

(2) 事業の背景・これまでの実績

本事業は将来小学校や中学校の教員を目指す学生が、大学の講義や国内の教育実習では得られない海外という異なる環境下での教育のあり方を体験し、教員として必要な視点や実践的な知識を深めることを目的としている。また、現地に住む日本人の子どもたちが通う学校において、国内の学校との共通点や相違点、異文化環境の中で児童がどのように学び生活しているのかを実際目で確かめる機会となっている。

(3) 事業実施結果

【ジョホール日本人学校での取り組み】

- ・小人数制の学級において、日本各地からの居住経験を活かした社会科やコミュニケーション重視の英語、音楽づくりの授業において指導補助を行った。
- ・現地校との伝統舞踊を通じた文化交流や、全校での日本人墓地の清掃・献花活動に参加し、異文化理解や日本人としての自覚を育む教育活動を体験した。

【ホーチミン日本人学校での取り組み】

- ・大規模校でのスクールバスや保護者送迎による徹底した安全管理と、教職員全体でクラスの枠を超えて児童を見守る協力体制を学んだ。
- ・習熟度別の英語教育を参観したほか、算数や道徳などの授業で個々の特性に合わせた指導補助や授業実践を行い、反省会を通して授業改善に取り取り組んだ。

【高雄日本人学校での取り組み】

- ・地校内に併設された小規模校において、教員が校種を越えて連携する体制や学力層に応じた発問で個人の意見を引き出す授業手法を学んだ。
- ・親日的な地域社会の協力による実社会に根ざした学習や、台湾の歴史を教育資源として活用する特色ある教育活動、および教員の効率的な働き方について視察した。

(4) 事業の意義

本事業は、海外の教育現場での実践を通じ、大学の講義では得られない教員としての視点を深める重要な機会となった。

- ・異文化理解と自己の再認識：現地文化への歩み寄りや歴史に触れる活動を通じ、異文化理解と日本人としてのアイデンティティを再認識した。
- ・学校の役割と子どもの適応力：出会いと別れが多い環境で育まれる子どもたちの高い適応力に触れ、教職員が一体となって安全な居場所を創る学校の重要性を肌で学ん

だ。

・実践的な指導力と視野の拡大：少人数を活かした発問の工夫、歴史の多層的な指導、教員の業務効率化など、今後の基盤となる実践的な指導力と幅広い視野を獲得した。

(5) 事業の発展性

参加学生は、本プログラムでの経験を通して、子どもたちとともに考え、一人ひとりの背景に寄り添える教員を目指すという強い意欲を持った。海外の現場で学んだ多様な指導方法や、地域の資源を教育活動に活用する視点、児童の学力層に合わせた段階的な発問の技術は、今後の日本の教育現場においても直接的に応用され、還元されるものである。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

本事業は、本学の中期目標・中期計画である「グローバル人材育成」「実践的指導力の高度化」「多様な教育課題への対応」に合致し、以下の役割を果たす。

- ・グローバル教員の育成：多文化環境での実習を通じ、国際的な視野と異文化理解力を持つ教員を育成する。
- ・実践的指導力の向上：海外校ならではの少人数指導や地域資源を活用した教育を実見し、柔軟な対応力と授業構想力を高める。
- ・多様な背景を持つ児童への支援：海外で学ぶ子どもの心理やアイデンティティ形成に触れ、将来的に国内の外国にルーツを持つ子どもへのインクルーシブな支援に生かす。
- ・地域社会への還元：本研修で得た「子どもに寄り添う力」や多文化共生の視点を地域の教育現場に還元し地域貢献を果たす。

(7) その他

特になし。

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

【異文化の中で学ぶ、日本の教育～海外日本人学校インターンシップ～】

三重大学教育学部および教職大学院の学生が、ベトナム（ホーチミン）、マレーシア（ジョホール）、台湾（高雄）の日本人学校にて、約1～2週間の研修を実施しました。本事業は、将来教員を目指す学生が、日本国内の大学での講義や教育実習では得られない「海外という異文化環境下での教育のあり方」を直接体験することを目的としています。多様な背景やルーツを持つ日本人の子どもたちが、異国の地でどのように学び、生活し、自身のアイデンティティを形成しているのかを肌で学ぶ貴重な機会となりました。各研修先では、以下のように学習指導の補助や一部授業の立案・実施に加え、その国や地域の特性を生かした教育活動に深く関わりました。

・マレーシア・ジョホール日本人学校（1学年1クラスの少人数制）：日本の様々な都道府県からの居住経験を活かした社会科の授業や、コミュニケーションを重視した英語の授業を参観しました。現地のスリアラム校との伝統舞踊を通じた文化交流に加え、全校児童生徒による日本人墓地の清掃・献花活動に参加しました。

・ベトナム・ホーチミン日本人学校（大規模校）：各学級では、算数や図工などの学習指導補助に入り、児童の習熟度に合わせた個別の支援を実施しました。さらに、教員が分担して担当する道徳の授業や、1年生からのレベル別ネイティブ英語教育、他国の日本人学校とのオンライン交流など、大規模校の特性を生かした実践を数多く学びました。

・台湾・高雄日本人学校（現地校併設の小規模校）：現地の小学校内に併設されるというユニークな環境のもと、中学校の専科教員が小学校の担任を兼務するなど、校種を越えて柔軟に連携する指導体制を学びました。授業では、児童の学力層に応じた発問や課題を用意し、一人ひとりの意見を引き出す手法を観察しました。さらに、親日的な地域社会や日系企業の協力を得た学習活動や、日本統治時代の足跡を「多層的な真実」として捉える歴史教育の現場に触れました。

インターンシップを通して得たもの

親の海外赴任等に伴い多くの出会いと別れを経験する子どもたちが持つ「環境への高い適応力」や「転校生を即座に受け入れるコミュニケーション能力」に、参加学生は深い感銘を受けました。同時に、多文化環境下における子どもたちの心理的安定とアイデンティティ形成の背景、歴史を多面的に教えることの重要性、そして教員同士のチームワークによる業務効率化の大切さなど、現場ならではの課題と向き合いました。この経験は、広い視野を持ち、日本国内の多様化する教育現場において、あらゆる背景を持つ子どもたち一人一人に寄り添える教員となるための礎になると確信しています。

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

[Learning Japanese Education in Cross-Cultural Environments: Overseas Japanese School Internship]

Students from Mie University's Faculty of Education and Graduate School of Education participated in a 1-to-2-week internship at Japanese schools in Ho Chi Minh (Vietnam), Johor (Malaysia), and Kaohsiung (Taiwan). This program aims to provide future teachers with firsthand experience of educational practices in cross-cultural environments, observing how Japanese children with diverse backgrounds learn and form their identities abroad. Students assisted in classes, conducted lessons, and engaged in educational activities reflecting regional characteristics:

- **Johor (Small-scale):** Students conducted music and moral education classes utilizing the small-class environment. They also participated in cultural exchanges with the local Suria Alam School and joined a whole-school activity to clean the local Japanese cemetery.
- **Ho Chi Minh (Large-scale):** Participants observed strict safety management systems and warm, school-wide collaboration among teachers. They provided individualized learning support in math and arts, and learned from practices unique to a large school, such as level-based native English classes and teacher-rotated moral education.
- **Kaohsiung (Co-located):** Located within a local Taiwanese school, participants observed flexible teaching frameworks across school levels. They learned detailed questioning techniques tailored to varying academic levels and experienced unique history education utilizing footprints of the Japanese colonial era.

Outcomes of the Internship

Participants were deeply impressed by the high adaptability and communication skills of children living abroad. The internship provided practical insights into real-world challenges, such as identity formation in multicultural environments, teaching the multifaceted nature of history, and the importance of efficient teamwork for teachers' work-life balance. This invaluable experience will empower participants to become inclusive educators with a global perspective, capable of empathizing with every child in Japan's increasingly diverse classrooms.